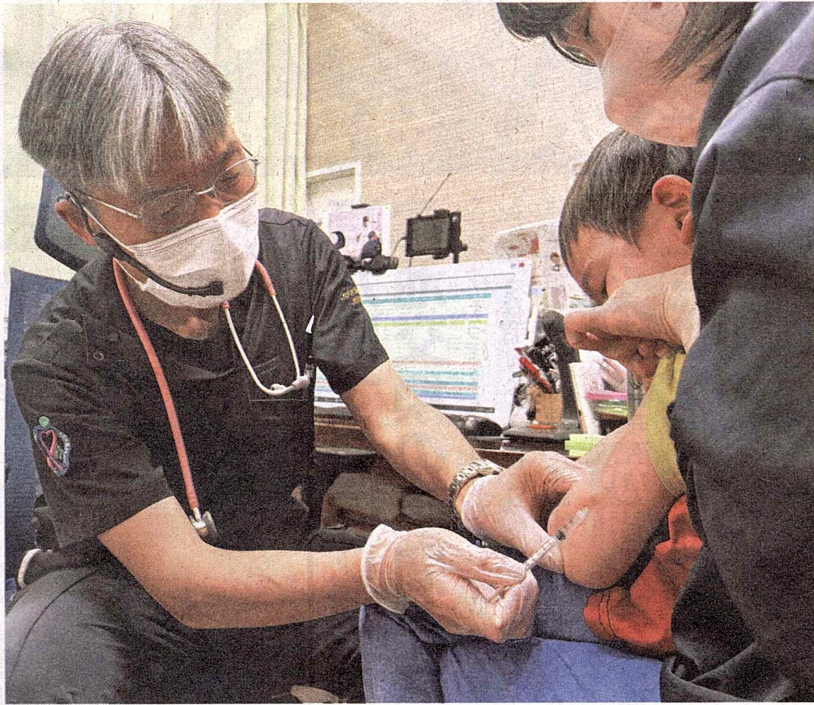


男児に日本脳炎のワクチンを接種する「いとう王子神谷内科外科クリニック」の伊藤博道院長
＝東京都北区（永礼もも香撮影）

石油不安 深刻な影



石油の供給不安の影響を受ける主な医療資材



※厚生労働省や医療機関などへの取材を基に作成

透析用チューブなど海外依存

石油由来の原材料は数多くの医療資材に使われている。例えば、原油から精製される「ナフサ」と呼ばれる油は、点滴や予防接種に用いられるプラスチック製の注射器の製造に不可欠だ。
厚生労働省が安定供給に影響が出ていると判断した医療資材は73品目にも上った。診療現場で直接的、間接的に石油が必要とされている状況がうかがえる。
厚生労働省の資料には、消毒液やその容器、血液を保存する献血バッグの製造用溶剤、手術用のメスや縫合糸の洗浄剤、解熱鎮痛薬の製造用溶剤、錠剤製造の滅菌工程で必要となるポイラー用灯油などが列挙されている。
人工透析用チューブをはじめ、供給を海外に依存した資材も多く、今回の石油不安では供給網の課題も浮き彫りとなった。
(星直人)

医療資材不足 現場に危機感

エネルギー輸送の要衝ホルムズ海峡の封鎖状態が長期化するなか、石油の供給不安が医療現場に深刻な影を落としている。石油を原材料とする一部の医療資材が入手しづらくなっており、調達不安を見越した過剰発注や在庫確保も状況を悪化させているようだ。診療の質を維持するためにも安定供給は喫緊の課題となっている。
(内田優作、永礼もも香)

安定供給へ原料確保 国も奔走

■買い物袋で手袋代用 伊藤博道院長はこう話す。「点滴を打てば打つほど赤字になる」。東京都北区の「いとう王子神谷内科外科クリニック」の

チック製の注射器も発注から納品までに1〜2週間かかる。医療用手袋もSサイズは在庫切れ。Mサイズも残りわずか、節約のため片手のみで使うようにした。手袋の代わりに買い物袋も用いている。
伊藤院長は「しわ寄せがすべて現場に来ている。このままでは医療の質が落ちてしまう」と危機感を示した。
こうした懸念は各地の医療現場に広がっている。3月下旬には、開業
医師で構成する全国保険医団体連合会（保団連）が「状況がこのまま推移すれば医療提供に重大な影響を及ぼしかねない」として、政府に供給確保や財政措置を求めた。
日本医師会（日医）も「国と緊密に連携し、医療現場が困窮することがないように、医療提供体制の確保に全力で協力する」（松本吉郎会長）と呼びかけた。
■流通の目詰まり問題 厚生労働省によると、今月8日時点で8244